

# 平成 30 年度地区 P T A 指導者研修会 報告書

( 平成 30 年 1 2 月 7 日 )

静岡県公立高等学校 P T A 連合会

# 静岡県公立高等学校PTA連合会会長あいさつ

## 会長 小山 全 司

本会は、PTA活動をとおして社会教育・家庭教育・学校教育の充実を図るため、会員のみなさまと連携し青少年健全育成と生涯学習社会の構築を目指すとともに会員のみなさまご自身の更なる人間形成と資質向上を目的としています。

その一環として本会では「地区PTA指導者研修会」を重要事業に位置付け、県内11地区の「地区世話人校」「研修会担当校」のPTAのみなさまに計画・運営をお願いし事業の助成をしてきました。計画・運営にご尽力くださいましたPTAのみなさまに深く感謝申し上げます。

本年も6月から10月の間に実施され、「地区PTA研修会報告」がありましたので報告書にまとめ、本会ホームページに掲載しました。

各地区とも活発な研修会の報告をいただいています。ご一読いただき今後の活動の参考にしていただければ幸いです。

### < 目 次 >

- 1 賀茂地区PTA指導者研修会報告…………… P 1
- 2 三島・田方地区PTA指導者研修会報告…………… P 2－3
- 3 沼津・駿東地区PTA指導者研修会報告…………… P 4－5
- 4 富士地区PTA指導者研修会報告…………… P 6－7
- 5 清水地区PTA指導者研修会報告…………… P 7－8
- 6 静岡地区PTA指導者研修会報告…………… P 8－9
- 7 志太・榛原地区PTA指導者研修会報告…………… P 9－10
- 8 掛川地区PTA指導者研修会報告…………… P 10－11
- 9 磐田地区PTA指導者研修会報告…………… P 11－13
- 10 浜松地区PTA指導者研修会報告…………… P 13－14
- 11 特別支援学校PTA指導者研修会報告…………… P 15

賀茂地区  
 日時 七月九日(月)  
 会場 松崎高校  
 参加数 百名

《開会》十四時

梅雨晴れの中、賀茂地区高等学校PTA指導者研修会が実施された。稲取高校、下田高校、下田高校南伊豆分校、松崎高校の四校より百名の方々に出席して頂き、研修会が催された。研修のテーマは「進路指導に活かすコーチング」このテーマに沿って常葉大学大学院准教授の久米昭洋氏に講演して頂いた。

当番校PTA会長挨拶

松崎高校PTA会長 福本 芳美  
 来賓同様、講師久米様、各校参加保護者・先生方に対してお礼を述べた。自身の家庭でも進路に対して苦労や悩みがあることを述べ、

今回の講話を聞き各家庭の進路実現に大いに役立つことを切に願うと述べた。また副目標である保護者の皆様の自己マネジメント力が向上し、より良い家庭を築くことができるようにしてほしいと話し、会長の挨拶とした。

賀茂地区高等学校代表校長挨拶

松崎高校校長 寺島 明彦

来賓と講師への謝辞と当番校関係者へのねぎらいの言葉を述べた。数年前に久米先生と同じ職場で勤務をした経験があると述べ、その当時から久米



先生は様々な分野で多くの情報と知識をお持ちであり、同僚からも一目置かれるほどの技術を身に付けておられた。久米先生自身もその技術を惜しみなく發揮され、力になつて頂けるような存在であつたと述べた。

最後に今回の研修が有意義なものなることを願い、挨拶とした。

来賓挨拶

高等学校PTA連合会副会長 関 隆之



昨年度行われた高P連静岡大会についてお話を頂いた。静岡大会はエコパアリーナで行われ、九三八八名が参加し、学校にすると二

四二五校が参加したことになる。静岡県からは大会の運営として一四六五名が参加した。会は好評であったが大会を通して問題も顕在化した。一億円の運営費のうち二千から三千万円を開催県が負担することになっている。そのため、規模の縮小や大会日程の見直しが全国でも議論されている。縮小に関しては一人から五千人に設定することで会場確保の負担を軽減していく動きがあり、二〇二〇年の島根県大会で縮小するのではないかと言われている。また日程についても午後から開会することで食事を

準備する負担を軽減するように議論が進められている。現段階では参加方法は定まっておらず、決まり次第事務局から連絡があるとのことであった。最後に研修会が実りあるものになることを祈つて挨拶とされた。

講演

講師 常葉大学大学院初等教育

高度実践研究科

准教授 久米 昭洋

演題

「進路指導に活かす  
 コーチング」

現在は常葉大学の大学院で初等教育について研究をされている久米先生だが、過去には稲取高校で教鞭を執られていた経歴があり、賀茂地域の教育についても理解が深い。またPHP研究所公認のビジネスコーチや米国NLP協会公認マスタープラクティショナーといった多数の資格、免許を所持しており、職員やPTAに対しても研修を行っている。



コーチングとは自立に対して有効な手段であり、現在、教育の世界でも話題に上がる「主体性を育むこと」にも有効なものである。

親という字は「木の傍らに立ち見守る」と書くように、親にもコーチングのスキルが必要となる。コーチングとは自立す

るまで効果的に関わり、できたら見守るものである。しかしながら人はある日いきなり自立するものではなく、部分的に自立していくものである。近い将来、約四七%の仕事が自動化するといわれている。そうした厳しい社会の中で生き抜く力を育むために家庭でのコーチングが重要となる。過去に寄り添い共感するカウンセリングと、これから先どのような生活に生きていくか、というコーチングを上手に複合させていくことで、子ども達にこれからの社会で求められる力を身につけてもらいたい。頭で分かっていることと行動には深い溝があるため、そこにメスを入れるのがコーチングであると述べ、最後にチーム賀茂地区の活性を祈念して講話を締めくくった。

謝辞

松崎高校PTA会長 福本 芳美



今回の素晴らしい講演に対してお礼を述べた。そして家庭でも傾聴、承認ができるように心掛けていきたい。将来について一緒に考え、自立できるように家庭でも教育ができるように努めていこうと心掛けていきたいと述べ、謝辞とした。

日時 七月三日(火)  
 三島・田方地区 函南町文化センター  
 参加数 一二二名

司会 三島北高校PTA  
 神尾 恵子・山本真弓

一 開会の言葉  
 三島北高校PTA副会長

二 挨拶  
 武市 直子

静岡県公立高等学校PTA連合会  
 副会長 関 隆之

地区世話人理事  
 (三島北高PTA会長) 古澤 範久

三島・田方地区校長会代表  
 (三島北高校長) 齊藤 浩幸

三 講演 (e-ネット安心講座)

演題 「インターネットの安全・安心な使い方」(子どもたちをネットの被害者にも加害者にもさせないために) ○  
 講師 総務省東海総合通信局  
 電気通信事業課長 加藤 昭彦 氏

e-ネットキャラバンは、児童・生徒のインターネットの安心・安全な利用を目的とした小学生・中学生・高校生、保護者・先生方向けに実施する啓発講座です。インターネットや携帯電話等の情報通信に関わる企業や団体などの他、総務省からも講師を派遣することにより、全国で無料出前講座が行われており、(一財)マルチメディア振興センターが、総務省、文部科学省の支援を受けて運営を



行っています。インターネットやアプリは、安全に正しく使うことができればとても役立つ便利なものですが、

しかし残念ながら、誹謗中傷やいじめの温床になったり事件や犯罪に巻き込まれるきっかけになったりしていることも事実です。子どもたちが被害者だけでなく、加害者になるケースさえ生じています。

フィルタリングについて 保護者のスマホやタブレットは、利用者が成人なので購入時にフィルタリングの説明はなく、フィルタリング・サービスにも未加入。小さな子供にそのまま使わせる事態は避けたいのですが、調査では自身が普段使っているスマホにフィルタリングを設定して貸し与えている保護者は8%、未就学児用のフィルタリングは残念ながらありません。でも小学生用フィルタリングをオンにして貸し与えることで、不適切な情報に触れる可能性は激減します。常に大人と一緒に操作することが望ましいのですが、やむを得ず子供のみで使わせることがあるのなら、貸し出す際に「フィルタリングON」という、ほんのひと手間をかけてあげましょう。

SNSなどのコミュニティサイトを通じた犯罪被害

出会い系サイト規制法改正(平成20年)に伴い、出会い系サイトに起因する犯罪被害児童は年々減少しており、平成二八年度の被害は過去最少でした。その反面、コミュニティサイトによる被害児童が急増しています。サイトでのやり取りがきっかけで、児童買春や児童ポルノ等の性的犯罪にあう子供が急増しています。その半数以上は「善悪の区別や危険の判断はできるから」と、SNSを比較的自由に活用している高校生。リアルな友達とネットで知り合う人の違い、頭でもわかっているはずなのに・・・。

騙されたり脅されたりして、裸の写真を送らされる被害も年々増加 裸や下着姿のような露出の多い写真を要求され、自ら撮影した画像を送信させられる被害も増えています。コミュニティサイト+スマホという組み合わせが圧倒的に多く、中学生が半数を超えています。一八歳未満の子供の裸の写真は、撮影も送信も保持も児童ポルノ禁止法違反。

ネットの向こう側の人を見極めることは、大人でも簡単ではありません。「人とのやり取りにより生じる危険」「コタクト・リスク」を避けるためには、データから背景を想像し、そのリスクの存在を知っておくことが必要です。

スマホの過度な使用による日常生活への支障 友人とのトークが連日深夜まで続き遅刻や居眠りをするようになってしまった。無料通話アプリでトークを終わら

せるタイミングが分からず、夜遅くまでスマホを使う毎日を繰り返して、朝起きるのが辛くなり、眠たくて授業にも集中できなくなり体調や成績にも影響が出る生徒がいます。

友人関係が何より大切な時期ですが、生活習慣の乱れや睡眠不足は、健康や学習面にいろんな影響が出てきます。適切な利用のためにできる工夫としては、①睡眠について調べてみる「成長ホルモン」と睡眠の関係を調べてみると子どもたちが自ら気付く事があるかもしれません。②ルールを作ってみる。トークの終わりの言葉を決める。○時までと決めるなど、自分たちで話し合っつてルールを作ると、コントロールしやすくなります。

③時間の使い方を見直してみる。 四六時中、気付くとスマホを手にして いる。無料通話アプリやSNS、ゲーム、動画など、楽しく魅力的なことがいろいろできるスマホですが、使いすぎには要注意。勉強や食事をしていてもスマホが気になる、歩行中もスマホから目が話せない、そんな依存傾向のある子どもが増えています。適切な使い方ができるように、利用者のルールを話し合い、保護者が利用状況を把握するよう心がけましょう。利用時間を制限するアプリを利用することも一つの方法です。

なりすまし投稿による誹謗中傷 誰かになりすますことも、誰かを陥れるような書き込みをすることも違反行為です。迷惑行為や誹謗中傷は、利用規約で禁止されています。登録時に同意

したルールですから、守って使うよう指導してください。また、他人になりすまし行為は発言の責任をなすりつけることになるため、相手が傷付いたり、信用を失ったりした場合、名誉毀損で訴えられる可能性もあります。「ネットなら誰にもわからない」と勘違いしている子もいますが、警察が動くようなケースだけでなく、ネット上の様々な情報により書き込んだ本人が特定できる場合があることを正しく理解させましょう。

**個人や学校などへの強迫行為**  
ネットであつぷんを晴らそうとする人や、極端な投稿で注目されるような人います。でも、脅迫や犯行予告とみなされれば犯罪となり、投稿者が逮捕されるケースもあります。

単なる脅しや悪ふざけで実行する気はなかったとしても、脅迫めいた書き込みは、犯罪となる恐れがあります。また、学校や駅などで事件を起こすといった地域社会に大きな不安を与える書き込みも同様に犯罪となります。軽い気持ちで書き込むと、相手を深く傷つけるだけでなく、投稿者自身の傷にもなるのです。安易に書き込みがちなネットの匿名性ですが、基本的には、いっどこから書き込まれたのか調査でき、個人を特定できます。善悪の判断ができない心理状態からネットから離れる、これが一番の安全策です。

SNSやネットで知り合った人による性犯罪被害

ネットを介し、同じ趣味や、有名人・キャラクターのファンと知り合うことも多い時代。でもそれがきっかけでトラブルや犯罪に舞い込まれることも。

「同じ趣味や話が合う人に悪い人はいない」と考え会ってみたいと思う青少年が増えています。しかし、相手が本当のことを言っているとは限らず、実際にあつて事件やトラブルに巻き込まれるケースは年々増えています。また、彼氏が彼女に憧れる年令になると「読者モデルをしているイケメン」や「可愛くて好みのタイプ」のような相手だと、想像がどんどん膨らみ、疑い気持ちを持ってなくなつてしまう可能性も。思春期の複雑な気持ちを理解した上で、取り返しの付かないことにならないための行動を促しましょう。

**SNSなどへの投稿内容から個人が特定**  
友人とシェアするつもりで写真を投稿したところ数日後からつきまといを受けるようになった。投稿した写真で個人が特定されてしまったことが引き金でした。

写真投稿サイトなど、写真や動画を公開できるサービスは、いっぱいありますが、自分の身を危険にさらさないためには、どんなことに気をつけたら良いのでしょうか？（指紋さえわかる高画質）カメラの性能が高まり、ピースサインから指紋が判別されることもあるとか、指紋がわかるくらいなら、背景に映る看板や文字なども簡単に読めるはず、今まで以

上の注意喚起を。

写真の中の建物や地域の行事でも生活範囲は憶測できる。未成年者は、SNSなどを利用する際の個人情報の取扱にルーズな面がある。基本的に誰でも見ることがSNS、限られた友人感のやり取りだとしても、会話の中に名前や住んでいる場所、学校名などがあれば、写真を載

せただけで個人が特定されてしまい、非常に危険です。

また、友人が写っているものを投稿すれば、（たとえ掲載の許可をもらつていても）その友人を危険に晒すことになりかねません。



**まとめ**  
子どもたちにスマートフォンをもたせる前に  
・スマートフォンを操作できる。

（資料や情報などがあれば簡単な設定も自分でできる。）↓まず自分で使つて基本的な操作を把握しておきましょう。

・情報モラルやフィルタリングについての基礎知識がある。↓学校や地域で開催する研修会、Webの情報、書籍、事例集など積極的に学びましょう。

・スマートフォンの正しい利用を態度で示すことができる。↓歩きスマホをしない、食事中や就寝前など使わないなど保

護者自身が見本となつて良いマナーを学ばせましょう。

・スマートフォンの使用目的や使い方について、子供と話し合うことができる。↓子供の気持ちを聞き、目的を確認した上で、使い方を一緒に考えましょう。

・スマートフォンの利用ルールを子供と一緒に考えて決めることができる。↓大人が勝手に決めてもだめ、子供の言い分にも耳を傾けながらじっくりと話し合い、ルールを決めましょう。

・家庭内で決めたルールを定期的話し合い、適宜見直すことができる。↓利用範囲や時間、課金、各種制限など、発達・成長段階に合わせてルールを調整しましょう。子供と定期的に話し合うことは、保護者が新しい情報を得る機会となり、お互いの理解が深まるのでおすすめです。

#### 四 講評

次年度当番校校長（伊東高校校長）

成田 優

#### 五 閉会の言葉

次年度当番校PTA会長

（伊東高校PTA会長）

小川 直克

沼駿地区  
 七月五日(木)  
 沼津市立図書館  
 参加者 一八九人

一 全体会

沼津城北高校PTA副会長 小野 和昭  
 開会の言葉

小山高校PTA会長 小野 浩幸  
 幹事校PTA会長挨拶

沼津城北高校PTA会長 西島 浩司  
 幹事校校長挨拶

沼津城北高校校長 高橋 和秀  
 来賓挨拶

県公立高等学校PTA連合会  
 副会長 望月 美奈子

研修会報告  
 沼津工業高校PTA会長 芦川 一志

今年度も沼津市立図書館を会場に開催しました。幹事校の沼津城北高等学校PTA会長及び校長の挨拶に続き、県公立高等学校PTA連合会副会長望月美奈子様の御挨拶をいただきました。

研修会報告では、県高P連総会に出席した沼津工業高等学校の芦川PTA会長が、研修会の報告を行いました。

二 分科会

全体会の後、四分科会に分かれて、それぞれのテーマに基づいて意見交換をし、参加者の校長先生から助言をいただきました。

第一分科会

「家庭内での子供の様子、教えてください」  
 沼津工業高校PTA副会長 日吉 奈保子

第一分科会では参加者を15人程度のグループに分け、全員参加型の座談会方式で「家

庭内での子供の様子、教えてください」をテーマに話し合いました。どのグループも、自己紹介をしながら家庭での子供の様子を話してもらいました。

多くの家庭では、子供は学校生活と部活動が中心で、帰宅をして食事をして、寝るという生活パターンが多いようです。勉強している様子が見られないという家庭が多い中で、スマホを利用するなど工夫をしている家庭もあり、勉強スタイルは様々でした。

親子の会話は、平日は家族の時間帯がバラバラでなかなかできないのが現状で、休日の食事時にする家庭が多いようです。だからこそ、日々のちよつとした送迎時、子供が話してくれるときには耳を澄まして聞くのが大切で、子供の興味や関心のある話をするよう、親も努力することも必要だと思います。

助言者の先生からは、受験や勉強に対する親の強い気持ちを感じられたが、考えてほしいのは子供が自分のため、自立するためであるということが一番大切であり、その期間として高校三年間が大事だということを、保護者が認識してほしい。さらに親のありがたみを知ってもらうために、まず子供たちにお弁当を作らせてみましょう、という課題をいただきました。

第二分科会

「SNSと上手な付き合い方」  
 沼津工業高校PTA副会長 青柳 友美

第二分科会出席者45名が3つの小グループ15人ずつに分かれ、意見交換をしました。

SNSは問題視されることが多いが、実際には、家族間での連絡ツールとして好意的に使用している家族がほとんどでした。しかしトラブルがないわけではなく、ネットで知り合った素性の分からない人と実際に会おうと

したり、偽の情報がすごい早さで広がったり、いじめの加害者や被害者になったという意見もありました。

それらを防ぐ方法として、SNS勉強会に参加したり、危険性を認識し子供が当事者意識をしっかりと持つこと、それを学んでいる子供と一緒に親も学ぶことなどがあげられました。

フィルタリングに関しては、上手に使用している家庭もある一方で、煩わしさから使用をやめる家庭もありました。使用していない保護者のほとんどが、子供との会話をすることで防げると感じていることが印象的でした。ほとんどの家庭で、親子での会話ができています。使用時間の制限など、家庭での約束



事をつくる必要があるですが、ルールが守れないときは本人が納得していない可能性があり、守れるルールを作れるかどうか、今後の課題となると思います。

第三分科会

「生徒数の減少とPTA活動の在り方について」

小山高等学校PTA副会長 國府方 貴

(一) 各校の現状と取り組みについての意見交換

①一部の学校では生徒数の減少を感じないとの意見もあったが、大半の学校では切実な状況にあることが分かった。

②対策の一つとして、支部統合や地区の再編を実施または検討している。ただ統合により



広域化されたことで、地区の結び付きが希薄になったり、支部会への出席率低下などの問題も起きている。

③PTA会員の減少による会費の値上げ実施または検討

円滑な活動のために必要だが、保護者の負担が増す。そこで文化祭での模擬店やバザーを行い、売り上げを活動費に充てる学校もあった。

(二) 助言者からのアドバイス  
 ①参加の強制をやめてポイント制にする。

(三年間で決められたポイントを取得)②PTA総会を土曜日または日曜日に開催する。③PTAの枠を超えた学校運営の在り方についても考えていきたいとの意見をいただいた。

#### 第四分科会

「交通安全へのPTAの関わりについて」

小山高等学校PTA副会長

和田 めぐみ

①各校共通で取り組んでいることは年2〜4回の街頭指導、自転車の整備と保険の確認、交通ルールとマナーの指導である。新年度が始まった直後に1年生の自転車事故の報告が多くなっているのが現状である。

②PTAで交通安全委員会を設置し、地域の方や警察、学校で主要道路や危険箇所において街頭指導を行っているが、それ以外の箇所での指導は不可能である。学校や家庭で「安全第一」を日々子供に声掛けする。「時間に余裕を持って登下校させる」「車視点から自転車の危険を教える」などの心がけが必要ではないか、という意見をいただいた。

③製造業における安全対策である「ヒヤリハット」の観点から、日々の交通場面で出遭う様々な危険を的確に予測する大切さを学んだ。危険予測能力を身に付け、危険を予測する心のゆとりが必要であることを学んだ。

○助言者からのアドバイス

「まだ間に合う!」「結果オーライ!」ではなく、時間に余裕を持って行動する・させる。自転車運転技術の意識・時間の意識、ルール・マナーの意識を学校と家庭で話題に挙げると子供たちの意識を高められるのではないか。通学路の変更などを含め再確認するよう、意見をいただいた。

#### 三 講演会

演題「自立をうながすコーチング」進路実現

にむけて」

講師

常葉大学大学院初等教育

高度実践研究科 准教授

久米 昭洋 様



今年度の講演は、教職大学院で、学生の指導に当たるとともに、全国の教育権場やPTAなどでの研修会や講演を通して、教育についての提言を活発にされている、久米昭洋先生に、「子どもの実利とコーチング」をテーマに講演をいただきました。

講演会を傍聴し想うこと

沼津城北高等学校PTA副会長 小野 和

本年度の講演は、常葉大学大学院准教授、久米昭洋先生による「コーチング」が題材でした。

高校生の親にとって、子供とどのように接し、親子で目標に進んでいくのか、そのプロセスが重要だと思える内容でした。具体的には、親が子供の話をしっかり聞き、共感しつつ話を肯定的にとらえることで、子供を勇気

づけます。さらにより良くするために、質問を投げかけて子供に自発的に考えさせ、自分からの行動を促進させるとともに、親としてはそれを見守ることです。そういう親子のやり取りやコミュニケーションを通して、子供は自然に自立能力が発達していきます。私は先生のお話を通して、このように考えまじいこともあります。

子供の自立能力を発達させることは、社会に出るために必要不可欠なもので、それを育ててあげるのが親の役目だと思いきりまりました。

先生のお話の中にもありましたが、子供は一瞬で自立するのではなく、部分的に一つ一つ自立していきます。親としては、子供と積極的に関わりながら、しっかり見守ってあげることが大切なのだ教えていただきました。

もう一つ印象に残っているのは、子供に質問を投げかける際に、答えの範囲を明確にすることが大切だということです。そうすることで、子供は考える力をより発揮し、親もその答えが範囲内なら、肯定的にとらえることができます。その繰り返しを通して、子供は大人になって社会に出てからも、いろいろな発想ができ、また人の話をしっかり聞き、皆でアイデアを発展させ建設的な話し合いができ社会に必要な大人になっていきます。

先生の講演を通して、親としての責任を再確認するとともに、子供を見守る大切さや、親も一人の人間として成長できることを教えていただきました。

#### 四 全体会

分科会報告

第一分科会

沼津工業高等学校PTA副会長

鈴木 ひとみ

第二分科会

沼津工業高校PTA副会長

江島 住子

第三分科会

小山高校PTA副会長

國府方 貴之

第四分科会

小山高等学校PTA副会長

和田 めぐみ

各分科会で話し合われたことや意見などを紹介し、参加者全員で課題や解決のヒントを共有しました。

閉会の言葉

沼津工業高校PTA副会長

富田 春好

九月十四日（金）  
 富士・富士宮地区  
 富士市文化会館ロゼシアター  
 参加者 一六五人

一 開 会  
 司 会 富士高校 P T A  
 副会長 伊藤清美

開会の言葉  
 富士見中学・高校 P T A 会長 松野智仁  
 挨拶 富士高校 P T A 会長 宮川公治  
 来賓祝辞 公立高校 P T A 連合会 副会長 望月美奈子



二 発 表 (内容要約)

発表一 「我が子のための P T A 活動」  
 富士館高校 P T A 会長 鈴木 康隆

〈学校紹介〉

富士館高等学校は、明治 33 年静岡県富士郡立富士農林学校として設立、昭和

23 年静岡県立富士宮農業高等学校と改



称し、平成 14 年静岡県立富士館高等学校に改称し、単位制総合学科に改編、現在創立 118 年目を迎える伝統校です。  
 総合学科高校は、1 年次に自分に合った系列を選び、2 年次からその系列の勉強を始めます。

系列は国際教養系列・社会科学系列・自然科学系列、生物生命系列、工業テクノロジー系列、情報ビジネス系列・健康福祉系列の 7 つの系列があります。全生徒が「産業社会と人間」で全系列の授業を体験出来るので、自分に合った勉強のできる学校です。

〈 P T A 活動の紹介 〉

富士館高等学校 P T A は本部役員、地区理事、専門委員会となっており専門委員会は進路研修委員会、生活委員会、広報委員会の 3 つがあります。

進路研修委員会では、生徒の就職活動のための模擬面接を行っており、昨年度は就職率が 100 パーセントでした。

生活委員会では、朝の挨拶運動を年 3 回行い、また、夜間の巡視を 2 回行って

います。

広報委員会では、富士館だよりの発行を年 2 回行っています。

その他の行事として、芙蓉祭ではきなことあんこのお餅を全生徒に配布しております。このような活動を通して生徒が生活しやすい環境になるよう活動しております。

発表二

「 F I N E 」  
 富士宮東高校 P T A

本校は明治 39 年に大宮町立女子技芸学校として開学。組織変更・名称変更を経て昭和 28 年度に静岡県立富士宮東高等学校となりました。今年で創立 112 年となります。

学科編成は全日制課程と定時制課程。全日制課程は普通科普通コース、普通科芸術コース、福祉科となっています。卒業後の進路は大学進学・専門学校進学・就職が 3 分の 1 ずつです。「希望の進路に合った指導」を受けられるからこそ、このような進路状況が可能なのだと思います。

〈 P T A の活動紹介 〉  
 本校 P T A は居住地毎に 11 地区に分かれており、入学式後に 1 年生の地区役員を決定します。また、校外指導委員会・研修委員会・広報委員会という 3 つの委員会がそれぞれ夜間巡視、研修旅行企画、広報紙発行という活動をしています。

地区や委員会の枠を超えて、桜丘祭文化の部での焼きそば屋台出店、交通安全指導、長距離走大会応援などを行っています。桜丘祭文化の部焼きそば屋台の売り上げは生徒会費に寄付したり長距離走大会のドリンク購入に充てています。年 1 回開催している「地区懇談会」は、内容・会場・日程などを工夫しています。これからも保護者同士や保護者と先生方が共に手を携えて、生徒のより良い学校生活とより良い将来を応援していきたいと思えます。

三 講 演 会

演題 「落語から学ぶ人の育て方」  
 講師 有賀亭旅の輔 (本名 鈴木孔明)

(株) オンリースカイ 代表取締役

〈落語〉

有賀亭志の輔さんの弟子時代の経験談から小噺。  
 志の輔師匠 新作 「親の顔」

息子の独創的なテスト答案がきっかけで担任の先生に呼び出された父親が、まず隠居さんに相談してから、学校に行き三者面談を行う噺。最後の先生のコメントは、ふざけたようにもとれる生徒の答えを善意に解釈した教育的な内容になっていた。この部分は旅の輔さんのオリジナルだそう。

〈講演〉



清水地区  
九月七日（金）  
エリザベート  
参加数 一三九名

開会式 一四時三十分

司会

静岡県立清水西高等学校PTA

文化委員長 望月由美

広報委員長 鳥居里恵

一 開式のことば

静岡県立清水西高等学校

PTA研修会実行委員長 天野香織

二 挨拶

静岡県立清水西高等学校

校長 青木伸也

三 来賓挨拶

静岡県公立高等学校PTA連合会

副会長 青山 健

四 日程説明

司会者

講演会 十四時五〇分〜一六時二〇分

講師

リオデジャネイロ

パラリンピックメダリスト

佐藤 圭太 氏

演題

「夢に向かって」

五 閉式のことば

静岡県立清水西高等学校PTA

副会長 望月浩代

五 閉会

富士宮北高校PTA

会長 池野 武

以前、清水西高校の生徒の前でも講演をしてくださった佐藤選手を迎えての講演会。とても優しい笑顔で我々を魅了してくださいました。

病気を発症するまでの子供時代、発症後の治療方法と決断、その後の競技への想い等とても丁寧な、そして分かりやすく伝えてくださいました。

冒頭、佐藤選手が「私を見てどう思われましたか？障がい者だと感じましたか？」との問いかけに、正直とまじいまま。私も高校時代には障がい者施設へボランティアに行ったりもしましたが、日常的に障がい者の方との関わりも無く、この年になってもその答え方の正解が分からないからです。

今回佐藤選手は、足を切るという手術の選択というとても決断の理由を、私たちが驚くほど前向きに語ってくださいました。

「やらないを選択しない」という大事なキーワードとともに。

大きな決断をするときには、とてもためらいます。しかし、「ほんの一瞬の



勇気」がその後の人生を誇れるものにかえてくれた、と佐藤選手は語ってくれました。

運動が好きだったから、今後も運動ができる術式の選択。初めて義足で走った時の楽しさを忘れずに、競技人生を続ける選択。自分の意思で決めたからだからこそ成功も失敗も自分のものとなり、【障がいコンプレックス】ではなく、【特徴・個性】だと思える様になったと。

特別に難しい事を語ってくださいました訳ではないのですが、非常に素直に、私の心に響いてくる言葉をたくさんいただきました。

「自分をリスペクト」。佐藤さんの言葉を聞いていると、自分の思い次第で





カンタンに未来を変えられる気がしました。高校生の息子達世代だけでなく、私達親世代も。挑戦まっただ中の子供達には、まだまだ負けられません！

丁度、来年度からは子供が巣立ちます。やりたかったこと、諦めていたことなど色々なコトに挑戦しようと思心しました！いくつになっても「やらないを選択しない」。常に新しく「考え方をアップデート」して、家族、友人、もちろん自分の気持ちを大切に、過（こ）していきましょう！

当たり前前のことかもしれませんが、改めて思わせてくれた佐藤選手、本当にありがとうございます！

：スーツ姿では分かりませんが、スリート！胸板も厚く逞しかったです。今は一日中練習の日々を過（こ）されてること、今後の佐藤選手のご活躍をお祈りしております！

講演 演題  
「大人が変われば、子どもも変わる！  
『親子のコミュニケーションを考える』」  
講師 宮本 淳子 氏



- 1 開会式  
司会  
静岡農業高校PTA 副会長 中藤 智  
開会の言葉  
静岡農業高校PTA 会長 江口幸生  
来賓挨拶  
県公立高校PTA連合会 副会長 青山 健  
世話人校長挨拶  
静岡農業高校 校長 竹川暢昭  
日程説明  
静岡農業高校PTA 副会長 森 邦路  
2 全体会  
静岡農業高校吹奏楽部 演奏  
静岡農業高校PTA活動の紹介

十月六日(土)  
静岡地区  
グラนด์ホテル中島屋  
参加者 一九三人

(常葉大学短期大学部  
日本語日本文学科 専任講師)  
静岡地区の研修会テーマ「知る力、活かす力、応える力を発揮できる高校生を育成する」について、宮本先生は  
「自ら社会と関わり、人との相互作用の中で自立できる人間力を育む」ととらえ、人とながるチカラ＝言語能力の重要性をもとに、親子間のコミュニケーションにとって大事なポイント3つをお話していただきました。

(1) 子ども(相手)の興味関心を知る。  
錯視図を見ると、人によって対象のとらえ方や認識が異なり、そのような状態のままではコミュニケーションは成立しません。親子の興味や関心を知り、理解して会話の話題にすることで親子間のコミュニケーションは発展します。子どもが話題にしたいことと、親が話題にしたいことが違っていることも多いので、親は子どもの視点を意識した話題を用意する必要があります。茨城県の高校生の家庭を対象に行った調査では、同じテレビ番組を見たことや、一緒に買い物・スポーツ・趣味活動をすることは、子どもの興味を親が分かち合おうとする姿勢をつくり、親子の会話を増やしているという結果が出ています。親子のコミュニケーションには、子ども・親・話題の3つの相互作用が働いていて、この中でも特に話題を意識して変えていくことで、コミュニケーションは大いに発展します。

ダナ・サスキンド氏の研究では、生まれつき耳の聞こえない子どもに人工内耳のインプラントを施術したあとに、身につけられる会話能力において、親子間の会話量が最も大事な要因だとしています。親は子どもに対して、注意とからだをしっかりと向け、Tune In(チューン・イン)することを心がけてほしいです。目と目を合わせて、相手と向き合



う会話が大事です。話題のミスマッチを避けることもでき、お互いの気持ちの共有を可能にし、子どもにとっての楽しい家庭になる助けとなるはずですよ。

(2) 聞き手としての役割を意識する。  
グリのアンケート調査では、子どもがいつでも気軽に自分に話しかけられると思ってる親の割合よりも、子ども自身が親に気軽に話しかけられると思ってる割合の方が低いという結果が出ています。また、子どもは、親の機嫌が悪そうだとか、話しかけてもリアクションが乏しく、おざなりの対応をとられると話しかける意欲をなくすというデータもあります。親自身が「話しかけないで」、「忙しい、時間がない」といったオーラを出してしまうと、親子の会話は激減します。話の聞き手としてのゆとりがあるかどうかは、たいへん重要なことです。イライラする、余裕がないといった心理状態をなるべく抑え、いつでもどうぞという気持ちを持つよう心がけること、話を聞く際に、うなずきや相づち・オウム返しなど反応の仕方にも心を配ることで、聞き手としての力量を磨いてほしいと思います。会話の主導権はまさに聞き手が握っているといっています。親が聞き手としての

自分を変えてみてはいかがでしょうか。

(3) 信頼関係が土台となる。

悩みがない子どもは親から愛されてると感じていて割合が高い傾向にあります。また、子どもが親と話したい話題をあげてもらおうと、親に自分をほめてもらいたい、認めてもらいたいという子どもの気持ちがよく現れています。親から愛され認められていると感じる子どもにとつて、家庭も楽しく居心地が良いものとなります。親にしても子どもから話を聞きだそうという一辺倒な姿勢だけでなく、自分自身のことについて子どもにもっと話してあげることが大事です。親から子どもに対しての自己開示、たとえば、高校生の頃こんな悩みをかかえていたんだよ、とか、人に言えないような恥ずかしい失敗談を話すことが、子どもに安心と親近感を与え、お互いの信頼関係構築につながります。英語のコミュニケーションと同義語の日本語はありません。本来の意味は、相手とお互いの情報を交換するということです。今日、自分に何があったか、何に関心があるのか、親自身に起こった出来事や気持ちを子どもにどんな話しましたよ。話すことで、相手に共感し、考えや思いを言語化する能力が育ち、それが他者と関わる力になっていくのです。

宮本先生は、アナウンサー・ラジオパーソナリティーとしても長年活躍してこられ、巧みな言葉遣いもさることながら、会場を笑いの渦に巻き込むユーモアもたっぶり披露してください、終始楽しい講演となりました。また、コミュニケーションの専門家として様々なデータを引用し科学的で具体的な内容を盛り込みながらも、テーマに沿った詩の朗読や本の紹介もしてください、おおいに勉強させていただくことができました。講演の終わりには、親子の会話のネタになるようにということ、早口言葉の体験を出席者全員で行い、最後まで楽しい雰囲気の中、出席者どうしの



コミュニケーションも盛り上がりました。

### 3 閉会式

来年度世話人校挨拶  
科学技術高校PTA会長 小関伸幸  
閉会の言葉  
静岡農業高校PTA副会長 森 邦路

志太・榛原地区 7月3日(火)  
焼津市民文化会館  
参加数 一九八名

研修テーマ  
「なりたい自分になる」

### 1 全体会

司会  
藤枝北高等学校PTA副会長 中野幸次郎  
八木 大輔  
主幹校代表挨拶  
藤枝北高等学校PTA会長 村松 久嗣  
主幹校代表挨拶  
藤枝北高等学校校長 鈴木 敏彦  
来賓挨拶  
県公立高等学校PTA連合会 副会長 青山 健

### 2 講演

講演①「2つの自信とは」  
講演②「金メダリストの持っているメンタルとは」  
講師  
日本スポーツ心理学会認定スパー  
ツメンタルトレーニング上級指導士  
田中ウルヴェ京 氏

全体研修会では、ソウル五輪シンクロナイズドスイミング銅メダリスト、田中ウルヴェ京氏を講師に迎え、テレビ寺子屋公開収録を兼ねて講演を行いました。講演は、「2つの自信とは」、「金メダリストの持っているメンタルとは」をテーマにお話をいただきました。写真「テレビ寺子屋」田中ウルヴェ京 氏  
分りやすい話で、普段我々が考えていないことを色々気付かせてもらうことができました。



閉会式では、次年度の研修会を担当される清流館高校PTA会長中村裕美子様より御挨拶をいただきました。

### 3 グループ別意見交換会

AからDまでの4グループに別れ、主幹校と三校の協力校が各グループの進行を担当し、意見交換会のテーマ「なりたい自分になる」に基づいて各グループ活発な意見交換が行われました。内容の一部を掲載します。

### ① 子どもの自己実現を支える家庭とは

- ・子どもの純粋なところを大切に、働かないと生活できないことを教えながら子どもを支える家庭でありたい。
- ・高校生でやりたいことを見つけたのは難しい。親としては経験を伝えることが今できるアドバイスだと思ふ。
- ・親子両者がお互い信じあえる関係を築き、安心できる家庭が大切。
- ・子どもの成長と共に、接し方を変える。親として見守るのも接し方の一つだと思ふ。
- ・子どもの将来について押し付けることなく

経済的なサポートをしていく。子どもには、自分で生きる力を身に付けてほしい。

② 素敵な父親、母親になるためには

・親として子どものためにいかに動いているか。いつか子どもがわかってくれると信じ、



裏表なく子どもの為に動くことが大事。  
・子どもは親を見ているので、まず、親自身  
が明確な目標を持ち、充実した生活を送る  
ことが大切。

・親は子どもの為に税金を用意することも  
大切。社会に出た時の為に必要な常識を教  
えられる親でありたい。子どもへの愛情や  
見守る姿勢伝えることが大切。  
・子どもの自己実現を応援。家族で子どもの  
話を聞いてあげる。褒めて育てることで自  
信が持てることもある。

・家庭での何気ないコミュニケーションの  
なかで親として重要だと思ふことは、押し  
付けずに話す。

③ これからの社会で生きていくために何をすべきか

・今日の「テレビ寺子屋」の講師

が話してくれたように、課題を具体的に整理し解決していく力が必要。講師の田中さんの話していた9マスの目標設定シートが大変参考になる。

・今の社会は、情報がありすぎる。  
取捨選択し、不必要なものを切り捨てる能力が必要。

・色々なことを経験し、考える力、他者の気持ちで理解できる力を育てて欲しい。  
・親が様々なことにチャレンジし、いきいきとしていることが、子どもの栄養になる。

・親以外の大人と関わってコミュニケーション能力を鍛え成長することが大切。

講評

・親は子どもの気持ちをよくみ、子どもを見守ることが大切。子供には困っている人、弱い人には声をかけられる人になってほしい。

・田中ウルヴェ京先生もシンクロナイズドスイミングを目指されたことには何かのきっかけがあったことと思う。子ども達にもそのようなきっかけに出会えることを信じて見守ることが大切。

・夫婦仲が良い、互いの悪口を言わない。夫婦で子育てをしているそんな家庭では安心して子どもが親に相談できます。そのような家庭が一番望ましい。

・親は子どもを受け止めて話を聞いてあげられる存在です。話を聞いてあげて、選択肢を示してあげることが大切です。

・学習習慣を付けるには一日の生活リズムの起床時間、就寝時間、勉強を始める時間を固定することが大切。

7月9日  
掛川生涯学習センター  
参加数 75人

一 開会式

◎開会の言葉

掛川工業高校PTA副会長 岩崎紀陽子

◎当番校PTA会長挨拶

掛川工業高校PTA会長 落合恵美子

◎当番校校長挨拶

掛川工業高校校長 野本 人丸

◎来賓挨拶

静岡県公立高等学校PTA連合会 副会長 山崎 好和

二 講演会①

「ステンドグラス伝統技法千年の伝承」 講師 志田 政人



◎講師紹介

ステンドグラス作家として公共建築、教会個人  
邸などで多くの作品を製作している。ステンドグラス研究家としては30年以上にわたり、フランスを中心にヨーロッパ各地の教会

を取材撮影して、ステンドグラスの歴史やキリスト教図像学を研究し、その数は1400か所を越える。東京や大阪に教室を構え、数多くの著書も出版。掛川市ステンドグラス美術館の顧問。

◎講演内容



・現在日本にあるステンドグラスは、本物のステンドグラスではなく、ペイントガラスやプラスチックであることがあるが、それらを本物だと思っている人が多い。

・本物のステンドグラスの製造方法は1000年前から変わらず、500年間雨にさらされても耐えられなければステンドグラスとは言わない。

・フランスで通っていた大学は、年間6000円の授業料で、1クラス4〜5人の授業だった。授業料が安い代わりに、国の修復作業をするようなシステムになっていた。大学には国宝級の物がたくさんあるので、勝手に生徒は出入りできなかった。

・ステンドグラスには鉛や砒素など人体に有害な物質が含まれているため、職人に悪影響が及んでしまう。職人は命がけでステンドグラスを製造している。

・大聖堂のステンドグラス作りなどは、命がけで行われるが、天国に一番近い場所であるという安心感をもって働いた。

・ステンドグラスが大量生産されたのは13世紀頃。その頃は古い物は新しくすればよい

という考えだったが、今は古い物を残そうという考えに変わっている。教会が一通り建築された後は、ステンドグラスは貴族のものになっていった。

・現在、ステンドグラスの作品を提供している場所は郵便局、駅、結婚式場、病院など。病院にステンドグラスを設置することにより、利用者に安心感を与えられる。

・外国にステンドグラスを見に行くなら、フランスの北部。南部にはステンドグラスはないが、モザイク画やフレスコ画が素晴らしい。

### ◎参加者の感想

・本日のステンドグラスがどのようなものかわかった。  
・継承するのは大変で難しいことだと思いが、若い人たちにもっと紹介して広めてほしい。  
・どんなに少しでも次の人に伝えていかなければと伝承にならないという言葉が印象に残った。



た。

・専門的なお話だったので、未知の世界を知ることができた。

・「ステンドグラス」についての話だけでなく、国の歴史や文化を混ぜてスライドショーで分かりやすく説明してくださり、興味深く聞くことができた。

・いかに自分が無知であったか、その価値を正しく知ることが大切かを考えるよい機会になった。

・人生をかけるに値する仕事、という言葉が心に残った。

・ステンドグラス美術館に足を運んでみよう

と思う。  
・ステンドグラスと現代建築との融合はすごいと思った。

### 三 講演会②

「余計な怒りやイライラに振り回されないコミュニケーション」

アンガーマネジメント

講師 山崎 美代子

### ◎講師紹介

アンガーマネジメントシニアファシリテーターとしてアンガーマネジメントに関する数多くの御講演をされる一方で、掛川市桜木地域生涯学習センター長、掛川市子育てサポーターなど多方面で活躍。本校PTA常任理事でもある。



### ◎講演内容

・アンガーマネジメントとは1970年代にアメリカで考えられた心理学で、直訳すると「怒りを管理する」となるが、ここでは「怒りを後悔しないこと」とする。

・怒ることがいけないことではない。怒る必要のあることは上手に怒り、怒る必要のないことは怒らないようにする。

・怒りとは自然な感情表現の一つで「攻撃された・批判された・否定された」ときに身を守るための感情。

・問題となる4つの怒りとして、強度が強い(ちよつとしたことでもひどく怒る)・持続性がある(根に持つ)・頻度が高い(よくイライラ

イラしている)・攻撃性がある(他人や物を傷つける)がある。自分の怒りの傾向はどれか分析することが大切。

・怒りは第二次感情。第一次感情は不安、苦しみ、悲しみ、疲れ、痛みなどがあり、この第一次感情がいっぱいだと少しのことで第二次感情が爆発しやすい。第一次感情を上手に減らしていることが大切。

・怒りのコントロールテクニックとして6秒間の衝動のコントロールができることよい。反射的に言い返すのではなく、「お！そうきましたか！」と心で呟くと、客観視でき、落ち着くことができる。

・相手の思考が、自分と同じか、自分とは違うが許せる範囲か、全く違い許せないか、境目を自分の機嫌や相手によって変えない。境目を相手に示すことも重要。

・自分が楽になると回りも楽になる。怒りの連鎖を断ち切ろう。

### ◎参加者の感想

・アンガーマネジメントという言葉を知らなかったが、大切であることがわかった。

・学びの多い良い講演だった。

・分かりやすく、すぐ実践してみようと思う内容でよかった。

・今日教えていただいたことを1つずつ実践して、怒り・イライラを減らせたらと思おう。

・日常生活でのヒントが沢山詰まっていた。

・とても勉強になった。

・話もおもしろく、自分に置き換えながら聞けた。

・怒りを分析することで、感情のコントロールがしやすくなることがわかった。「自分の機嫌は自分でとる」がわかりやすかった。

・「大切なことほど静かな声で穏やかに伝える」をいつも胸に人と接していきたい。

### 四 閉会式

#### ◎閉会の言葉

掛川工業高校PTA副会長 深田 千佳

◎次回開催校挨拶

小笠原高校PTA会長 山内 晃芳

磐田地区 7月7日(土) 月見の里学遊館 うさぎホール 参加数百五十人
---

### 研修テーマ 「プラス思考」

より良い子育てのために

#### 一 全体会

##### 司会

磐田北高等学校PTA副会長 市川佳嗣

#### 開会のことば

袋井商業高等学校PTA副会長 提箸直樹

理事校PTA会長あいさつ

磐田北高等学校PTA会長 森岡 剛

校長会会長あいさつ

磐田南高等学校校長 赤塚頭宏

来賓あいさつ

県立富田高等学校PTA連合会 副会長 山崎好和

県・東海大会報告

袋井商業高等学校PTA会長 鈴木昭男

#### 二講演会一

アンケート報告

「プラス思考について」

保護者と生徒に問う

磐田北高等学校PTA

森岡 剛・野崎奈美・水口 厚

内閣府が作成した平成二十七年版

「子ども・若者白書」によると、平成二

十七年度において、小学生から高校生

すべての世代で不安や悩みを抱えてい

る割合が、平成十六年度に比べて上昇し

ている結果が示されています。一方、幸

せを感じる割合は、小中学生において

上昇しているものの、高校生では横ばいになっており、大人になる現実を目の当たりにして、不安や悩みを持った不安定な状態が浮き彫りになっています。

不安や悩みの中身は何なのか。本校の生徒はどのようなことで悩んでいるのかをアンケートにより実態を明らかにし、三浦教育研究所所長三浦弘行先生のご講演にお渡しすることとしました。

アンケートは本校の生徒2、3年生554名とその保護者を対象に実施しました。

アンケート方法は、回答率や集計のしやすさを考慮し、スマホでもパソコンでも参加できるウェブアンケート形式を採用しました。

アンケート内容は、生徒、保護者別々にアンケートシートを作成し、基本情報性格、悩みについては共通項目とし、生徒には「将来プラス思考」を、保護者には「プラス思考」を項目として加えています。

どの項目を見ても突出している項目が、勉強（進路）であり、全体で見ても8%と高く、学生らしい悩みであることが分かります。

これは内閣府が作成した平成27年度版「子供・若者白書」での結果、6%とほぼ近い値です。2年生と3年生の悩みの内容は変わらず、男女差もないことが分かります。

生徒、保護者のアンケート結果から見えてきたもの一つとして、生徒、保護者共に勉強、進路について悩み、考えていることが分かりました。

内閣府が作成した平成二十七年版

「子供・若者白書」においても、勉強・進路に悩んでいる生徒は約8割に上り、磐田北高校の生徒だけでなく、多くの高



校生が共通の悩みを持って、一生懸命大人に向かって頑張っている姿が見て取れました。

二つ目として、悩んでいる勉強・進路については、身近な存在に打ち明けているということも分かりました。友達に次いで母親、父親の順となっており、家族が生徒にとって大きな存在であることが分かります。

しかし、悩みを打ち明けられるぐらい親子関係がうまくいっていても、悩みに対して適切に答えられていない場合もあるように、アンケート結果からは見て取れました。

三つ目として、直面している悩みに対して、生徒、保護者共にプラス思考で取り組んで行きたいと考えていることが分かりました。ただ、プラス思考はどういうことなのか、どう考えることがプラス思考なのか、悩んでいることも見えてきました。

私たちの考えだけでは、子どもとどう

接し、どう言葉をかけたらよいか、最善の方法を見いだすのは難しい。そこで、私たちに良い一歩を踏み出すためのアドバイスやヒントを、プラス思考を長年研究されてきた三浦先生から、この後の講演にてお話しいただくこととしました。

講演会二

演題「プラス思考」

〜より良い子育てのために〜

講師 三浦教育研究所所長

三浦弘行 氏

先生と、教科書、この二つがないと、独力で大切なことを身に付けるということは、非常に難しいと思います。それにも拘わらず、一大事業であるこの子育てにつきまちは、ほとんどの方が先生はいない。教科書もない。先生がいなくて教科書がなくて、どのようにしてこの一大事業である子育てというものをやっているのでしょうか。これが日本のずっと前からのやり方です。両方ともないのが当たり前というところで、これが現在に至っております。

もちろんその家庭、その家庭でいろいろと、子育ての方針が違います。親にも個性があれば子どもにも個性がある。それぞれがぶつかり合います。ですから、何かの方針で、こういうふうにしなさいと命ずるといいうのは、非常に難しいというのが現実です。

しかし、そういう個人、家庭という状況を踏まえて、それを超えて、どうしても守らなければいけないというものはあるわけです。どうしてもこれだけは守らなければならぬというものがある

わけです。それは何かお気づきでしょうか。個人の家庭の事情、親の教育方針、まったく関係ありません。それは何かと申しますと、自然界の法則という、この宇宙の大原則です。自然の摂理と云っていいかもしれません。

今日、大きなテーマは、皆さんご自身ももちろんですが、お子さまをプラス思考、前向きな子に育てるといいう、これが



今日、私がお伺いしました大きなテーマです。そのために、どうしても気づいていただかなければならないのは、この一人一人の子どもの中に、そして大人の中に、つまりすべての人の中に、140億の脳細胞の中に、限界のない能力が入っている、とてつもない能力が私たちに授けられているという、この自然界の法則です。

私は「自信」というのが、誰にとっても一番大事だと思っています。どのようにしたら自信を付けさせることができるか。教育の最大の目標は、この自信を付けさせることだと云っても過言ではないということ。自信を付けるには

三つの方法を挙げています。本人が成功体験を積むことである。これは当然です。二つ目です。子どもがお父さん、お母さんから褒められる。褒められるということは、子どもの自信を強める意味で大変役に立つことです。褒められると脳の中で、ドーパミンという物質が出ます。

このドーパミンは本人にとつて大変快楽です。褒められるということは快楽です、気分がとてもいいわけです。またそれを味わいたいということで、褒められたことは、またそれを行うようになりまます。これが褒められる、褒められれば自信が付くというふうに結びつきます。まず自分が自信を持つ。そして子どもが自信を持つ。子どもさんが自信を持てば、あとはもうしめたものです。自信を持って、自信が出てくればやる気になります。自信とやる気はセットですから。劣等感とストレスはセットですから。どちらを取るからです。自信があればやる気が出ます。やる気があれば、勉強はもちろん、スポーツ、習い事、その他何であれ、やる気があればやります。やる気があればやれるのです。当たり前です。内発的力です。内発的力を引き出すにはどうしたらよいかという、アンケートの中にありましたけれども、それにはこれが一つの答えになると思います。つまり、子どもさんにすごい能力と可能性があるということを感じさせるということです。

このプラス思考というもの、傘、無限の能力がある、無限の可能性がある、運がいい、そして夢に挑戦、無限の分は、しかも運がいい、何かに守られている、

それならもう、やればできる。自分もそうだし、子どもさんにも、能力があつて、運がいい、守られている、やるしか



ない。何をやるか、世のため人のために、そしてまた自分のために、そして進歩のために、何かの進歩を喜んでいただくため。この夢に挑戦する、やれどできる。これは勉強もそうなのです。子どもが自信を持って、学校の成績は必ず上がります。自信を持つとやる気が出ます。

三 謝辞・記念品贈呈  
磐田北高校PTA監事 佐藤直世  
野崎奈美  
四 閉会のことば  
磐田北高校PTA副会長 水口 厚

六月八日(金)  
浜松地区 吳竹荘  
参加者 一六八人

一 総会

司会 浜北西高校PTA副会長

桑原 正樹

(一)開会の挨拶

静岡県公立高等学校

PTA連合会理事

浜松地区副会長

浜松北高校PTA会長

久保田 賢

(二)来賓挨拶

静岡県公立高等学校

PTA連合会副会長

山崎 好和

日頃より県高P連の各種事業や活動に御協力いただきましてありがとうございます。

昨年行われた夏の第六十七回全国高P連静岡大会の運営に多くのPTA役員ならびに先生のご尽力をいただきましてありがとうございます。おかげさまで成功を収めることができました。

先週、六月一日に行われた県の総会・研修会には三百八名の会員の参加がありました。お忙しい中本当にありがとうございます。今年度の研修会では、一般社団法人日本靴育協会代表理事森千秋様をお招きし、「成長期における靴環境が身体機能に及ぼす影響」について講演をいただきました。

PTAの活動は、子供たちのために保護者と学校が協力して教育環境や生活環境の改善に努めるとともに、会員相互の交流を通じてお互い学ぶ場でもございます。全国高P連、東海地区高P連の活動の紹介をさせていただきます。

まず、全国高P連は四つの委員会より構成されており、健全育成委員会、進路対策委員会、調査広報委員会、研修委員会となり、各種委員会の研修を通じて子供たちの問題把握に努めております。大きな活動としましては全国高P連大会で、今年の全国大会は佐賀県で行われます。次に、東海地区高P連は東海四県の連合会を中心に組織され、活動を行っています。東海地区連合会を四県持ちまわりで行っており、今年も愛知県で行われます。この愛知大会の内容については会報第一三六号で報告させていただきます。

今年の全国大会は第六十八回佐賀大会として、八月十九日(日)～二十一日(火)の日程で行われます。それにあわせまして、十九日には、静岡県高P連の情報交換会がホテルサンプラザ博多で行われる予定です。多数の皆様のご参加をお願いいたします。

(三)閉会の挨拶  
浜松西高校PTA会長 袴田 義久

二 指導者研修会

司会 浜北西高校PTA副会長

(一)開会のことば  
太田 恵太

浜松湖東高校PTA会長

見野 泰弘

(二)県高P連指導者研修会報告

浜北西高校PTA会長

鈴木 茂之

浜北西高校PTA会長より①平成二十九年度事業報告が行われた②研修会の講演内容の報告が行われた。

(三)講演

演題 「思春期の発達と支援」

講師 公益社団法人

子どもの発達科学研究所

主席研究員 和久田 学 氏

### ●思春期の問題

日本の若年無業者(ニート)は約六  
十万人で推移している。このニートの  
規準となる年齢層は十五〜三十四歳と  
されている。毎年、三十五歳をむかえ  
てこの年齢層から外れていく人がいる  
一方で、十五歳となり新たにニートと  
みなされる人が加算されており、減少  
していない。

また、ニートの枠組みから外れ  
た人も急に社会に出て働きはじ  
めたりしているわけではない。

このような成人期の問題は子ども  
のときに既に「種」が蒔かれており、「芽」  
が出ている可能性が高い。この「芽」と  
されるものは不登校・いじめなどがこれ  
までのデータで分かっている。さらに、  
これら以外では学校での孤立や家庭の



貧困などが挙げられる。しかし、これら  
は危険因子であり、これらの環境が必ず  
しも問題行動につながるものでもなく、  
IQの高さや保護者以外の尊敬できる  
大人の存在などの保護因子によって回  
避できることもわかっている。

### ●脳科学から考える思春期

脳の発達段階は思春期では大脳辺縁  
系(情動)が発達し、その発達に大脳皮  
質(抑制)が追いついていない状態のた  
め、問題行動が表面化する。大脳皮質は  
言語もつかさどる部位なので、言語によ  
るコントロールが可能である。そのため  
の声かけは「問題(困っていること)を  
教えて」や「本当はどうだったの?」  
といった、自覚促進質問が適している。  
この質問によって、思春期をむかえた生  
徒の感情の内言語化が進むことで、情動  
のコントロールをサポートすることが  
できる。

●発達心理学から考える思春期  
思春期はメタ認知の進行やアイデン  
ティティの確立、進路決定を迫られる現  
実の中で自己肯定感が低下する。時間は  
かかるが、その状況を支え、励まし続け  
る必要がある。

### (四)グループワーク

テーマ「子どもへの適切な  
支援の仕方を考える」



十四班に別れ、日ごろ接している高校  
生が抱えている悩み・問題を整理し、指  
導者研修会の講演を踏まえて、大人とし  
てどのように支援するかを話し合った。

### ●グループワークの報告

子供の感情的な反応に対して親も感  
情をぶつけてしまう事もあるが、感情的  
にならないように気をつけたい。冷静な  
対応をしながら、大げさに取り扱ってあ

げることには難しさを感じるが、取り組  
んでみたい。

いつになっても自分と子供の関係は  
初めての体験になる(親も年を取り、子  
供も年を取り互いに変化している)ので



やりにくさもあるが、子供に親がたくさ  
ん関わってあげたい。

### (五)開会の言葉

浜松西高校PTA会長

袴田 義久

特別支援  
あざれあ  
参加者 八十八人

【総会】

静岡北特別支援学校

小澤 智美 氏

一 開会のことば

静岡北特別支援学校

瀧 葉子 氏

二 会長あいさつ

浜松視覚特別支援学校

三原 秀樹 氏

三 来賓祝辞

静岡県公立高等学校PTA

連合会 会長 小山 全司 氏

四 来賓紹介

静岡県公立高等学校PTA

連合会 会長 小山 全司 氏

五 議事

(一) 平成二十九年度事業報告並びに決算の承認について

(二) 新役員承認について

(三) 新会長あいさつ

静岡北特別支援学校

PTA会長 塩島 真未子 氏

(四) チーム★輝きへ事業報告

富士特別支援学校

三原 秀樹 氏

今回は、ふじのくにチーム★輝き代表の 山崎美穂子 氏からの資料での報告となった。「ふじのくにチーム★輝き」は県内の障害のある児童生徒の、自己表現の場として行われている活動である。

平成二十九年は、県内の特別学校や学級の児童生徒及び保護者等(三十二組約百五十人)が、ピアノ演奏、リコーダー奏、エレキギター奏、パソコン画展示発表、踊り、クイックマッサージなどの演技を披露した。

二千二十年の東京オリンピックコンピック・パラリンピックで飾るハンドスタンプアートも行った。

助成金の用途は、チラシやポスター、当日の音響設備、必要な機材等の運搬費、郵送料などである。

(五) 平成三十年事業計画並びに予算案の審議

※活動計画・予算案とも承認

※今後取り組んでみたい事業として、ヘルプカードの作成と配布について、吉田特別支援学校の金子氏から提案があった。ヘルプマークとの併用で、災害時などの非常時に子供の助けになるだろうから、取り組んでみてはどうかということであった。

各校で、持ち帰り次回の代表者

会で意見を持ち寄り、検討する。

六 閉会のことば

静岡北特別支援学校

瀧 葉子 氏



平成30年度 総会資料表紙  
静岡北特支 高等部2年合同作品

静岡県教育委員会より

来賓紹介

静岡県教育委員会特別支援教育課

課長 山崎 勝之 氏  
指導監 山田 伸代 氏  
人事監 滝尾 彰彦 氏

静岡県特別支援教育の

現状と今後の展望

「県の特別支援学校の現状」

- ・各障害種別校の児童生徒数など
- ・地域の一員としての交流

平成三十一年度から交流簿、全県実施を目指している。

「教育施設の充実と整備」

- ・新設計画の進捗状況
- ・既存の学校設備の整備計画、空調の整備など

「安全確保、指導の改善、教職員の専門性、専門職の配置」

- ・指導の改善に向けた人材確保。(看護師の教諭採用、スクールカウンセラー、就労促進専門員の活用など)
- ・教職員の資質向上を目指した研修の実施

「センター的機能の充実」

- ・資質能力の育成を目指した主体的で対話的で深い学びの支店による授業改善

「地域の実情に応じた高等学校との連携」